

暗号・圧縮

| | |
|--------------------------------|----|
| 概要・基本設定 | 3 |
| ユーザーモジュール | 3 |
| 暗号アルゴリズム | 3 |
| DES | 4 |
| 3DES | 5 |
| AES | 6 |
| RSA | 6 |
| 認証アルゴリズム | 8 |
| HMAC-MD5-96 | 8 |
| HMAC-SHA-1-96 | 8 |
| 圧縮アルゴリズム | 9 |
| 鍵交換アルゴリズム | 9 |
| 鍵作成・保存機能 | 10 |
| ISAKMP の事前共有鍵 (pre-shared key) | 10 |
| リンクレベル圧縮 | 10 |
| PPP で STAC LZS を使う | 11 |
| PPP で Predictor を使う | 11 |
| フレームリレーで FRF.9 を使う | 12 |
| リンクレベル暗号化 | 12 |
| STAR 鍵交換モジュール | 12 |
| コマンドリファレンス編 | 17 |
| 機能別コマンド索引 | 17 |
| CREATE ENCO KEY | 18 |
| CREATE STAR | 22 |
| DESTROY ENCO KEY | 24 |
| DESTROY STAR | 25 |
| DISABLE ENCO COMPSTATISTICS | 26 |
| DISABLE ENCO DEBUGGING | 27 |
| DISABLE STAR DEBUGGING | 28 |
| ENABLE ENCO COMPSTATISTICS | 29 |
| ENABLE ENCO DEBUGGING | 30 |
| ENABLE STAR DEBUGGING | 31 |
| ENABLE STAR MKTTRANSFER | 32 |
| RESET ENCO COUNTERS | 33 |

| | |
|-------------------------------------|----|
| SET ENCO DHPADDING | 34 |
| SET ENCO DHPRIORITY | 35 |
| SET ENCO KEY | 36 |
| SET ENCO SW | 37 |
| SET STAR | 38 |
| SHOW ENCO | 40 |
| SHOW ENCO CHANNEL | 42 |
| SHOW ENCO COUNTERS | 45 |
| SHOW ENCO KEY | 48 |
| SHOW STAR | 50 |
| SHOW STAR COUNTERS | 52 |
| SHOW STAR MKTTRANSFER LOG | 54 |
| SHOW STAR NETKEY | 56 |

概要・基本設定

本製品の暗号・圧縮（ENCO = Encryption and Compression）モジュールについて説明します。

ENCO モジュールは、本製品のセキュリティおよび圧縮機能の土台となるベースモジュールです。IPsec や SSH などのセキュリティ機能、PPP やフレームリレーのデータリンク圧縮機能などは、すべて ENCO モジュールを利用して実現されます。

ENCO モジュールが提供する機能は次のとおりです。

- 暗号アルゴリズム：56 ビット DES、168 ビット 3DES、128/192/256 ビット AES、RSA 公開鍵暗号
- 認証アルゴリズム：HMAC-MD5-96、HMAC-SHA-1-96
- 圧縮アルゴリズム：STAC LZS、Predictor
- 鍵交換アルゴリズム：Diffie-Hellman
- 鍵作成・保存機能

ENCO モジュールが実際に提供している機能を確認するには、SHOW ENCO コマンド（40 ページ）を使います。

- ✧ 暗号関連の機能を実際に使用するときには、ルーターの動作モードをセキュリティモードに変更する必要があります。詳細は「運用・管理」の「セキュリティ」をご覧ください。

ユーザーモジュール

ENCO サービスを利用する上位モジュールを、ENCO モジュールの「ユーザーモジュール」と呼びます。ユーザーモジュールには、以下のものがあります。

IPsec（ISAKMP/IKE、AH、ESP）

DES、3DES、AES、HMAC-MD5-96、HMAC-SHA-1-96、Diffie-Hellman を使用します。詳細については「IPsec」の章をご覧ください。

SSH

DES と RSA を使用します。詳細については「運用・管理」の「Secure Shell」をご覧ください。

PPP（CCP、ECP）

STAC LZS、Predictor、DES を使用します。また、鍵管理に STAR モジュールを、TCP/IP ヘッダー圧縮では IP モジュールの VJC（Van Jacobson ヘッダー圧縮）を使用します。詳細は「PPP」の章、本章の「リンクレベル暗号化」、「リンクレベル圧縮」および「IP」の章をご覧ください。

フレームリレー

STAC LZS、DES を使用します。また、鍵管理には STAR モジュールを使用します。詳細は「フレームリレー」の章、および、本章の「リンクレベル暗号化」、「リンクレベル圧縮」をご覧ください。

以下、ENCO モジュールが提供する各種サービスの設定方法について説明します。ENCO モジュールは単独で使用するものではなく、より上位のプロトコルやサービスと組み合わせて使用するため、関連する他の章もご参照ください。

暗号アルゴリズム

ENCO モジュールは、共通鍵暗号 DES(鍵長 56 ビット) \ 3DES(鍵長 168 ビット) \ AES(鍵長 128/192/256 ビット) と公開鍵暗号 RSA (鍵長 256 ~ 2048 ビット) をサポートしています。

DES

共通鍵暗号 DES (56 ビット) は、IPsec (ESP) \ ISAKMP、SSH、PPP とフレームリレーのデータリンク暗号化において、セッション鍵として使用されます。

DES で使用する鍵を作成するには、CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) の TYPE パラメーターに DES を指定します。鍵は、ランダムに生成することも、他のルーターで作成した鍵の値を入力して使うこともできます。

DES 鍵をランダムに生成するには、RANDOM オプションを使います。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=DES DESCRIPTION="my DES key" RANDOM ↵
```

- ✧ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) はコンソールから入力したときだけ有効なコマンドです。設定ファイルにこのコマンドを記述しておいても無効ですのでご注意ください。
- ✧ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) で作成された鍵は、ノーマルモードでは、ルーターの再起動によって消去されます。暗号鍵を使用する場合は、必ずセキュリティモードに移行して鍵が保存されるようにしてください。
- ✧ ルーター上で作成した鍵は、設定ファイルとは別個にフラッシュメモリ上に格納されます。鍵はセキュリティモードでないと再起動によって消えてしまうため、再起動前にセキュリティモードへの移行を忘れずに行ってください。

作成した鍵の値を表示するには、SHOW ENCO KEY コマンド (48 ページ) を使います。鍵は本製品独自の 5 ビット ASCII 形式と 16 進数形式で表示されます。

```
SHOW ENCO KEY=1 ↵
```

```
SecOff > show enco key=4

j7amxbbrhun48a
0x4F40CB84313D1BAF

IP Address:
-
```

DES 鍵は値を指定して作成することもできます。これは、他のルーターでランダムに生成した鍵を別のルーターに入力するときに使います。値の指定には、「0x」で始まる 16 進数で指定する方法と、本製品独自の 5 ビット ASCII 形式で指定する方法があります。

16 進数で指定する場合は先頭に「0x」を付けます。長さは 8 バイト (64 ビット) です。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=DES DESCRIPTION="DES key"
VALUE=0xF888CAC6C66ECF52 ↵
```

※ DES の鍵長は 56 ビットですが、パリティ情報などを含めると 64 ビットになります。

5 ビット ASCII 形式は、小文字のアルファベット a~z と数字の 2~9 だけで構成される文字列で指定する方法です。鍵を生成したルーター上で SHOW ENCO KEY コマンド (48 ページ) を実行したときに表示される文字列を入力してください。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=DES DESCRIPTION="DES key" VALUE=9cemvrwgn5hvek ↵
```

3DES

共通鍵暗号 3DES (168 ビット) は、IPsec (ESP) ISAKMP のセッション鍵として使用されます。3DES で使用する鍵を作成するには、CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) の TYPE パラメーターに 3DESOUTER を指定します。鍵は、ランダムに生成することも、他のルーターで作成した鍵の値を入力して使うこともできます。

3DES 鍵をランダムに生成するには、RANDOM オプションを使います。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=3DESOUTER DESCRIPTION="my 3DES key" RANDOM ↵
```

- ※ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) はコンソールから入力したときだけ有効なコマンドです。設定ファイルにこのコマンドを記述しておいても無効ですのでご注意ください。
- ※ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) で作成された鍵は、ノーマルモードでは、ルーターの再起動によって消去されます。暗号鍵を使用する場合は、必ずセキュリティモードに移行して鍵が保存されるようにしてください。
- ※ ルーター上で作成した鍵は、設定ファイルとは別個にフラッシュメモリー上に格納されます。鍵はセキュリティモードでないと再起動によって消えてしまうため、再起動前にセキュリティモードへの移行を忘れずに行ってください。

作成した鍵の値を表示するには、SHOW ENCO KEY コマンド (48 ページ) を使います。鍵は本製品独自の 5 ビット ASCII 形式と 16 進数形式で表示されます。

```
SHOW ENCO KEY=1 ↵
```

3DES 鍵は値を指定して作成することもできます。これは、他のルーターでランダムに生成した鍵を別のルーターに入力するときに使います。値の指定には、「0x」で始まる 16 進数で指定する方法と、本製品独自の 5 ビット ASCII 形式で指定する方法があります。

16 進数で指定する場合は先頭に「0x」を付けます。長さは 24 バイト (192 ビット) です。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=DES DESCRIPTION="DES key"
VALUE=0x112233445566778811223344556677881122334455667788 ↵
```

※ 3DES の鍵長は 168 ビットですが、パリティ情報などを含めると 192 ビットになります。

AES

共通鍵暗号 AES (128/192/256 ビット) は、IPsec (ESP)、ISAKMP のセッション鍵として使用されます。AES で使用する鍵を作成するには、CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) の TYPE パラメーターに AES128、AES192、AES256 を指定します。鍵は、ランダムに生成することも、他のルーターで作成した鍵の値を入力して使うこともできます。

AES 鍵をランダムに生成するには、RANDOM オプションを使います。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=AES192 DESCRIPTION="192-bit AES key" RANDOM ↵
```

- ※ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) はコンソールから入力したときだけ有効なコマンドです。設定ファイルにこのコマンドを記述しておいても無効ですのでご注意ください。
- ※ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) で作成された鍵は、ノーマルモードでは、ルーターの再起動によって消去されます。暗号鍵を使用する場合は、必ずセキュリティモードに移行して鍵が保存されるようにしてください。
- ※ ルーター上で作成した鍵は、設定ファイルとは別個にフラッシュメモリ上に格納されます。鍵はセキュリティモードでないと再起動によって消えてしまうため、再起動前にセキュリティモードへの移行を忘れずに行ってください。

作成した鍵の値を表示するには、SHOW ENCO KEY コマンド (48 ページ) を使います。AES 鍵は 16 進数形式で表示されます。

```
SHOW ENCO KEY=1 ↵
```

AES 鍵は値を指定して作成することもできます。これは、他のルーターでランダムに生成した鍵を別のルーターに入力するときに使います。値は「0x」で始まる 16 進数で指定します。

16 進数で指定する場合は先頭に「0x」を付けます。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=AES DESCRIPTION="His 192-bit AES key"
VALUE=0x1a39dd7a7caa5523192138a5a4996347366879531329e0f8 ↵
```

- ※ AES 鍵の入力時には 5 ビット ASCII 形式は使用できません。

RSA

RSA 公開鍵は、SSH のサーバー鍵、ホスト鍵、認証鍵として使われます。

RSA 鍵ペアを作成するには、CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) の TYPE パラメーターに RSA を指定し、LENGTH で鍵の長さ (ビット) を指定します。有効範囲は 256 ~ 2048 ビットです。鍵は長いほど安全性が高まりますが、作成に時間がかかるようになります。現実的な鍵長は 1024 ビットとされています。

```
CREATE ENCO KEY=2 TYPE=RSA LENGTH=1024 DESCRIPTION="my key pair" ↵
```

- ✧ RSA 鍵の作成には時間がかかります。上記コマンドを入力すると「RSA Key Generation process started.」と表示されます。鍵の作成中は CPU 負荷が高くなります。鍵の作成が終わると「RSA Key generation process completed.」と表示されます。
- ✧ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) はコンソールから入力したときだけ有効なコマンドです。設定ファイルにこのコマンドを記述しておいても無効ですのでご注意ください。
- ✧ CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) で作成された鍵は、ノーマルモードでは、ルーターの再起動によって消去されます。暗号鍵を使用する場合は、必ずセキュリティモードに移行して鍵が保存されるようにしてください。
- ✧ ルーター上で作成した鍵は、設定ファイルとは別個にフラッシュメモリ上に格納されます。鍵はセキュリティモードでないと再起動によって消えてしまうため、再起動前にセキュリティモードへの移行を忘れずに行ってください。

作成した鍵ペアから公開鍵をファイルに書き出すには、CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) の FILE パラメーターで書き出し先のファイル名 (拡張子は .key) を指定し、KEY パラメーターには作成した鍵ペアの番号を指定します。鍵ファイルのフォーマットを FORMAT パラメーターで指定することもできます。

```
CREATE ENCO KEY=2 TYPE=RSA FILE=mypublic.key ↵
```

鍵ファイルから公開鍵を取り込むには、CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) の FILE パラメーターに既存の鍵ファイル (拡張子は .key) を指定し、KEY パラメーターには未作成の (空いている) 鍵番号を指定します。また、鍵ファイルのフォーマットを FORMAT パラメーターで指定することもできます。

```
CREATE ENCO KEY=3 TYPE=RSA FILE=hispublic.key DESCRIPTION="His public key" ↵
```

作成した鍵の情報は SHOW ENCO KEY コマンド (48 ページ) で確認できます。

```
SHOW ENCO KEY ↵
```

```
SHOW ENCO KEY=3 ↵
```

```
Manager > show enco key
```

| ID | Type | Length | Digest | Description | Mod | IP |
|-------|------|--------|--------|-------------|-----|----|
| ----- | | | | | | |

| | | | | | | |
|---|-------------|------|----------|----------------|---|---|
| 1 | DES | 8 | 1F35B264 | my DES key | - | - |
| 2 | RSA-PRIVATE | 1024 | EA83BD2C | my key pair | - | - |
| 3 | RSA-PUBLIC | 768 | 0ADBE436 | His public key | - | - |

認証アルゴリズム

ENCO モジュールは、データ認証アルゴリズムとして、ハッシュ関数 HMAC-MD5-96 と HMAC-SHA-1-96 をサポートしています。これらのアルゴリズムは、IPsec (AH、ESP) や ISAKMP のデータ認証処理に使用されます。

ハッシュアルゴリズムはソフトウェア的に実装されています。

HMAC-MD5-96

HMAC-MD5-96 では、16 バイト (128 ビット) の汎用鍵を使います。

鍵をランダムに生成するには次のようにします。

```
CREATE ENCO KEY=10 TYPE=GENERAL LENGTH=16 RANDOM DESCR="My MD5 key 1" ↵
```

鍵の値を 16 文字の文字列で指定することもできます。

```
CREATE ENCO KEY=11 TYPE=GENERAL VALUE="jogefogejogefoge" DESCR="My MD5  
key 2" ↵
```

鍵の値を 16 バイトの 16 進数で指定することもできます。

```
CREATE ENCO KEY=12 TYPE=GENERAL VALUE=0x000102030405060708090a0b0c0d0e0f  
DESCR="My MD5 key 3" ↵
```

作成した鍵の値を表示するには、SHOW ENCO KEY コマンド (48 ページ) を使います。

```
SHOW ENCO KEY=10 ↵
```

```
SecOff > show enco key=10  
  
0x281bd343a63e63d37b49f10c0b217dd2  
  
IP Address:  
-
```

HMAC-SHA-1-96

HMAC-SHA-1-96 では、20 バイト (160 ビット) の汎用鍵を使います。

鍵をランダムに生成するには次のようにします。


```
CREATE ENCO KEY=20 TYPE=GENERAL LENGTH=20 RANDOM DESCR="My SHA key 1" ↵
```

鍵の値を 20 文字の文字列で指定することもできます。

```
CREATE ENCO KEY=21 TYPE=GENERAL VALUE="fugafugafugafugafuga" DESCR="My  
SHA key 2" ↵
```

鍵の値を 20 バイトの 16 進数で指定することもできます。

```
CREATE ENCO KEY=22 TYPE=GENERAL  
VALUE=0x000102030405060708090a0b0c0d0e0f00010203 DESCR="My SHA key 3" ↵
```

作成した鍵の値を表示するには、SHOW ENCO KEY コマンド (48 ページ) を使います。

```
SHOW ENCO KEY=20 ↵
```

```
SecOff > show enco key=20  
  
0xca59ba48cd4e1c8d5ed3ad62ce786758cb01dcf3  
  
IP Address:  
-
```

圧縮アルゴリズム

ENCO モジュールは、データ圧縮アルゴリズムとして、STAC LZS と Predictor をサポートしています。これらのアルゴリズムは、PPP、フレームリレーのデータリンク圧縮で使用されます。

STAC LZS、Predictor を使うときは、最初に圧縮処理用のチャンネル (具体的にはメモリー) を設定しておく必要があります。圧縮チャンネルの設定は、SET ENCO SW コマンド (37 ページ) を使います。Predictor を使用するときは PREDCHANNELS パラメーター、STAC LZS を使うときは STACCHANNELS パラメーターでそれぞれ圧縮チャンネルの数を指定します。PREDCHANNELS、STACCHANNELS とともに最大値は 4 です。

```
SET ENCO SW PREDCHANNELS=2 ↵
```

```
SET ENCO SW STACCHANNELS=1 ↵
```

- これらのコマンドを入力したら、CREATE CONFIG コマンド (「運用・管理」の 158 ページ) で設定をファイルに保存し、SET CONFIG コマンド (「運用・管理」の 296 ページ) で起動スクリプトに指定した上でルーターを再起動してください。圧縮チャンネル用メモリーは連続した領域として確保する必要があるためです。

チャンネル数は接続先の数に応じて調整します。データリンク圧縮の場合、1 拠点なら 1 チャンネル、2 拠点なら 2 チャンネルとなります。デフォルトでは、圧縮チャンネルは確保されていません。

STAC LZS 用のチャンネルは 1 つあたり約 13KB のメモリーを消費します。一方、Predictor 用チャンネルは 1 つあたり約 128KB のメモリーを消費します。

鍵交換アルゴリズム

ENCO モジュールは、鍵交換のためのアルゴリズムとして Diffie-Hellman アルゴリズムをサポートしています。

Diffie-Hellman アルゴリズムの処理は、大きくわけて 2 つの段階に分けられます。最初の段階では、鍵交換を行う両者がそれぞれ乱数を生成し、既定式との計算結果を互いに交換します。第 2 段階では、相手から入手した値と自分で生成した乱数値から秘密鍵の値を求めます。これら 2 つの段階は、内部的にはさらに細かく分割されており、ルーター本来の処理に与える影響を少なくしています。

いずれにしても、鍵の計算処理は非常に CPU 時間を消費する処理です。本製品では、SET ENCO DHPRIORITY コマンド (35 ページ) で、Diffie-Hellman アルゴリズムの処理優先度を変更できるようになっています。優先度には、HIGH、MEDIUM、LOW の 3 つがあり、デフォルトは HIGH です。Diffie-Hellman 処理の優先度を低くするには次のようにします。

```
SET ENCO DHPRIORITY=LOW ↵
```

ENCO モジュールでは、Diffie-Hellman アルゴリズムで使用される公開値のうち、RFC2412 で規定されている Diffie-Hellman (OAKLEY) グループ 1 (768 ビット値) とグループ 2 (1024 ビット値) をサポートしています。

鍵作成・保存機能

ENCO モジュールの重要な機能の 1 つに、各種の暗号・認証アルゴリズムで使用する鍵の作成と保存のための機能があります。

本製品上で鍵を使用するには、CREATE ENCO KEY コマンド (18 ページ) を実行して、ENCO モジュールに鍵を登録する必要があります。鍵は、ランダムに生成して登録することも、他のルーターで生成した鍵の値を入力することによって登録することも、また、あらかじめ定められた形式のファイルから鍵を取り込んで登録することもできます。また、作成した RSA 鍵ペアの公開鍵をファイルに書き出し、他者に配布することもできます。

登録された鍵は、CREATE CONFIG コマンド (「運用・管理」の 158 ページ) で作成する設定スクリプトは別個にフラッシュメモリー上に格納されます。ただし、セキュリティーモードでない場合は、ルーターの再起動によって消去されてしまうため、鍵を使用する場合は必ずセキュリティーモードに移行するようにしてください。

鍵の作成方法は、使用するアルゴリズムによって異なります。DES、3DES、AES、RSA、MD5、SHA で使用する鍵の作成方法については、各アルゴリズムの設定手順をご覧ください。ここでは、これらに当てはまらない ISAKMP の事前共有鍵の作成方法についてのみ解説します。

ISAKMP の事前共有鍵 (pre-shared key)

ISAKMP で使用する事前共有鍵は、任意の長さの汎用鍵 (パスフレーズ) です。次のようにして作成してください。

```
CREATE ENCO KEY=30 TYPE=GENERAL VALUE="onetwothree" DESCRIPTION="ISAKMP
pre-shared key" ↵
```

リンクレベル圧縮

本製品は、フレームリレーと PPP でデータリンク層の圧縮をサポートしています。圧縮方式等のネゴシエーションには、RFC1962 と RFC1978 で規定されている CCP (Compression Control Protocol) を使います。圧縮アルゴリズムとしては、PPP では STAC LZS か Predictor、フレームリレーでは FRF.9 (STAC LZS) を使用できます。

以下、各圧縮方式を使う場合の基本設定について解説します。

PPP で STAC LZS を使う

PPP リンクで STAC LZS を使う場合は、次のようにします。

1. SET ENCO SW コマンド (37 ページ) でソフトウェア圧縮チャンネルを確保します。接続先の数に応じて、チャンネル数を指定してください。1 拠点なら 1 チャンネルです。

```
SET ENCO SW STACCHANNELS=1 ↵
```

2. 圧縮チャンネルの設定を有効にするため、いったん設定を保存してからルーターを再起動します。

```
CREATE CONFIG=linkcomp.cfg ↵
SET CONFIG=linkcomp.cfg ↵
RESTART ROUTER ↵
```

3. PPP インターフェースの設定で圧縮を有効にし、アルゴリズムとして STACLZS を指定します。

```
SET PPP=0 COMPRESSION=ON COMPALGORITHM=STACLZS ↵
```

PPP で Predictor を使う

PPP リンクで Predictor を使う場合は、次のようにします。

1. SET ENCO SW コマンド (37 ページ) でソフトウェア圧縮チャンネルを確保します。接続先の数に応じて、チャンネル数を指定してください。1 拠点なら 1 チャンネルです。

```
SET ENCO SW PREDCHANNELS=1 ↵
```

2. 圧縮チャンネルの設定を有効にするため、いったん設定を保存してからルーターを再起動します。

```
CREATE CONFIG=linkcomp.cfg ↵
SET CONFIG=linkcomp.cfg ↵
RESTART ROUTER ↵
```

3. PPP インターフェースの設定で圧縮を有効にし、アルゴリズムとして Predictor を指定します。

```
SET PPP=0 COMPRESSION=ON COMPALGORITHM=PREDICTOR ↵
```

フレームリレーで FRF.9 を使う

フレームリレーで FRF.9 圧縮を使う場合は、次のようにします。

1. SET ENCO SW コマンド (37 ページ) でソフトウェア圧縮チャンネルを確保します。接続先の数に応じて、チャンネル数を指定してください。1 拠点なら 1 チャンネルです。

```
SET ENCO SW STACCHANNELS=1 ↵
```

2. 圧縮チャンネルの設定を有効にするため、いったん設定を保存してからルーターを再起動します。

```
CREATE CONFIG=linkcomp.cfg ↵
```

```
SET CONFIG=linkcomp.cfg ↵
```

```
RESTART ROUTER ↵
```

3. フレームリレーインターフェースの設定で圧縮を有効にします。この場合は、同インターフェース上のすべての論理パス (DLC) で圧縮が有効になります。

```
SET FR=0 DEFCompression=ON ↵
```

リンクレベル暗号化

本製品は、フレームリレーと PPP で DES によるデータリンクレベルの暗号化をサポートしています。データリンクの暗号化に使う鍵は、本製品の独自方式 (STAR モジュール) を使って管理します。

STAR 鍵交換モジュール

STAR 鍵交換モジュールは、データリンクの暗号化で使用する鍵を管理する本製品独自のメカニズムです。STAR 鍵交換では以下の役割を持つルーターが必要です。

- マスタールーター (1 台): 鍵を生成し、他のルーターに配布する役割を持つルーター
- スタンバイルーター (オプション。1 台): マスタールーターに障害が発生したときに役割を引き継ぐルーター
- スレーブルーター (1 台以上): マスタールーターから鍵の配布を受けるその他のルーター

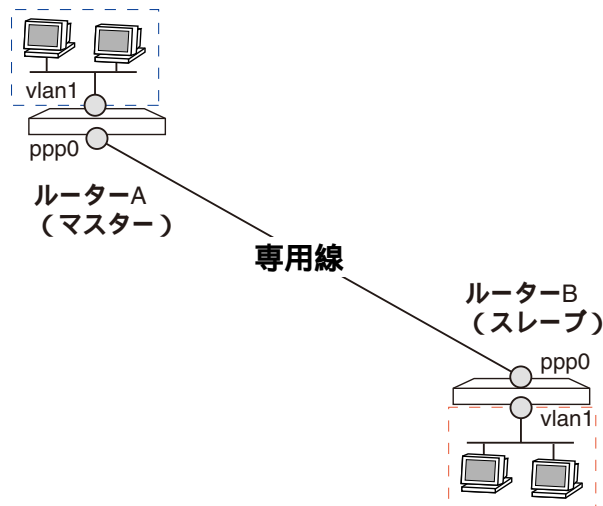
また、STAR モジュールでは以下に示す複数の鍵を使います。

- セッションキー: リンク上を流れる通信データを暗号化するための共通鍵。マスタールーター上で自動的に生成され、スレーブルーターに配布される。このとき、マスターキーによって暗号化が施される。ランダムな間隔で再生成されるほか、データリンクの確立時やリンクエラー発生時にも新しく作り直される。
- マスターキー (テーブル): マスタールーターからスレーブルーターにセッションキーを転送するときを使う共通鍵。マスターキーテーブルは 160 個のマスターキーをセットにしたもので、マスタールーター上で管理者が生成し、手動でスレーブルーターに転送する。データリンク暗号化を利用するためには、リンク上のすべてのルーターに同じマスターキーテーブルがインストールされている必要が

ある。

- ネットワークキー：マスタールーターからスレーブルーターにマスターキーテーブルを転送するとき
に使う共通鍵。管理者があらかじめマスタールーター上でネットワークキー生成し、これを安全な方
法で（コンソールから）スレーブルーターに入力しておく必要がある。

ここでは、PPP リンクで接続されている次のようなネットワークを例に、データリンク暗号化の設定手順を
示します。ルーター A と B は専用線で接続されているものと仮定します。



ルーター A (マスタールーター) の設定

1. 専用線と PPP の設定を行います。

```
SET BRI=0 MODE=TDM ACTIVATION=ALWAYS TDMSLOTS=1-2 ↵
CREATE TDM GROUP=remote INT=bri0 SLOTS=1-2 ↵
CREATE PPP=0 OVER=TDM-remote ↵
ENABLE IP ↵
ADD IP INT=vlan1 IP=192.168.10.1 MASK=255.255.255.0 ↵
ADD IP INT=ppp0 IP=0.0.0.0 ↵
ADD IP ROUTE=192.168.20.0 MASK=255.255.255.0 INT=ppp0 NEXT=0.0.0.0 ↵
```

2. STAR モジュールの有効範囲を示す STAR エンティティ「0」を作成します。ルーター A は鍵を配
布する側なので、MODE パラメーターには MASTER を指定します。ENCALGORITHM には暗号
アルゴリズムを指定します（現在サポートしているのは DES のみ）。

```
CREATE STAR=0 MODE=MASTER ENCALGORITHM=DES ↵
```

3. PPP インターフェイスでリンク暗号化を有効にします。STARENTITY パラメーターで STAR エン
ティティ番号を指定してください。

```
SET PPP=0 ENCRYPTION=ON STARENTITY=0 ↵
```

4. ネットワークキーを生成します。これは、マスターキーテーブルの配布時に使用する共通秘密鍵です。マスタールーター上でランダムに生成した後、他のルーターに手動で入力します。

```
SET STAR=0 NETKEY RANDOM ↵
```

5. 作成したネットワークキーの値を表示させます。ルーター B (スレーブルーター) にも同じ値を設定するので、安全に気を付けつつメモしておいてください。

```
SHOW STAR=0 NETKEY ↵
```

```
Manager > show star=0 netkey
```

```
fbj5m5ap7wasgd
```

6. マスターキーテーブルを作成します。これは、実際の通信の暗号化に使うセッションキーを暗号化するための鍵を複数まとめたものです。マスタールーター上で生成し、PPP リンク経由でスレーブルーターに転送します。

```
SET STAR=0 MKT RANDOM ↵
```

マスターキーテーブルは、管理者が手動で時々作成しなおしてください。鍵を再作成したときは、手順 7~10 を繰り返してください。

7. スレーブルーターにネットワークキーを入力したら、マスターキーテーブルを転送します。マスターキーテーブルの転送は、マスタールーター側だけで行う作業です。最初に PPP リンクをいったんリセットします。これにより、セッションキーの再交換が行われ、結果としてスレーブルーターがマスターキーテーブルの転送を要求してきます。

```
RESET PPP=0 ↵
```

8. 次のコマンドを実行して、スレーブルーターからのマスターキーテーブル転送要求を確認します。

```
SHOW STAR MKTTRANSFER LOG ↵
```

```
Manager > show star mkttransfer log
```

```
Star Master Key Table transfer request log:
```

| Serial Number | StarID | User | UserID | State | Time | Date | Requests |
|---------------|--------|------|--------|----------|----------|---------|----------|
| ----- | | | | | | | |
| 41849368 | 0 | PPP | 0 | RECEIVED | 16:22:27 | 08-Nov- | |
| 2001 | 8 | | | | | | |
| ----- | | | | | | | |
| --- | | | | | | | |

9. 要求を確認したら、次のコマンドを実行してマスターキーテーブルを実際に転送します。MKT-TRANSFER パラメーターには、スレーブルーターのシリアル番号を指定します。

ENABLE STAR MKTTRANSFER=41849368 ↵

10. 転送の進行状況は SHOW STAR MKTTRANSFER LOG コマンド (54 ページ) で確認できます。State 欄が SENDING なら転送中、COMPLETED なら転送完了です。

```
Manager > show star mkttransfer log

Star Master Key Table transfer request log:
Serial Number  StarID User UserID  State      Time      Date      Requests
-----
---
41849368      0   PPP      0   SENDING    16:22:27  08-Nov-
2001          48
-----
---
```

```
Manager > show star mkttransfer log

Star Master Key Table transfer request log:
Serial Number  StarID User UserID  State      Time      Date      Requests
-----
---
41849368      0   PPP      0   COMPLETED 16:22:27  08-Nov-
2001          48
-----
---
```

11. 設定は以上です。SHOW PPP コマンド (「PPP」の 74 ページ) でリンクの状態を確認してみましょう。LCP、ECP、NCP (ここでは IPCP) がすべて OPENED になっているはずです。

```
Manager > show ppp=0

Name           Enabled  ifIndex  Over           CP           State
-----
---
ppp0           YES      04              IPCP         OPENED
               ECP         OPENED
               acc-remote  LCP         OPENED
-----
---
```

マスターキーテーブルを作成しなおした場合は、手順 7~10 を再度繰り返してください。

ルーター B (スレーブルーター) の設定

1. 専用線と PPP の設定を行います。

```

SET BRI=0 MODE=TDM ACTIVATION=ALWAYS TDMSLOTS=1-2 ↵
CREATE TDM GROUP=remote INT=bri0 SLOTS=1-2 ↵
CREATE PPP=0 OVER=TDM-remote ↵
ENABLE IP ↵
ADD IP INT=vlan1 IP=192.168.20.1 MASK=255.255.255.0 ↵
ADD IP INT=ppp0 IP=0.0.0.0 ↵
ADD IP ROUTE=192.168.10.0 MASK=255.255.255.0 INT=ppp0 NEXT=0.0.0.0 ↵

```

2. STAR モジュールの有効範囲を示す STAR エンティティ「0」を作成します。ルーター B はマスタールーターから鍵の配布を受ける側なので、MODE パラメーターには SLAVE を指定します。ENCALGORITHM には暗号アルゴリズムを指定します（現在サポートしているのは DES のみ）。

```

CREATE STAR=0 MODE=SLAVE ENCALGORITHM=DES ↵

```

3. PPP インターフェイスでリンク暗号化を有効にします。STARENTITY パラメーターで STAR エンティティ番号を指定してください。

```

SET PPP=0 ENCRYPTION=ON STARENTITY=0 ↵

```

4. マスタールーター上で生成したネットワークキーを入力します。

```

SET STAR=0 NETKEY VALUE=fbj5m5ap7wasgd ↵

```


コマンドリファレンス編

機能別コマンド索引

一般コマンド

| | |
|---------------------------------------|----|
| CREATE ENCO KEY | 18 |
| DESTROY ENCO KEY | 24 |
| DISABLE ENCO COMPSTATISTICS | 26 |
| DISABLE ENCO DEBUGGING | 27 |
| ENABLE ENCO COMPSTATISTICS | 29 |
| ENABLE ENCO DEBUGGING | 30 |
| RESET ENCO COUNTERS | 33 |
| SET ENCO DHPADDING | 34 |
| SET ENCO DHPRIORITY | 35 |
| SET ENCO KEY | 36 |
| SET ENCO SW | 37 |
| SHOW ENCO | 40 |
| SHOW ENCO CHANNEL | 42 |
| SHOW ENCO COUNTERS | 45 |
| SHOW ENCO KEY | 48 |

STAR 鍵交換

| | |
|-------------------------------------|----|
| CREATE STAR | 22 |
| DESTROY STAR | 25 |
| DISABLE STAR DEBUGGING | 28 |
| ENABLE STAR DEBUGGING | 31 |
| ENABLE STAR MKTTRANSFER | 32 |
| SET STAR | 38 |
| SHOW STAR | 50 |
| SHOW STAR COUNTERS | 52 |
| SHOW STAR MKTTRANSFER LOG | 54 |
| SHOW STAR NETKEY | 56 |

CREATE ENCO KEY

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

```
CREATE ENCO KEY=key-id TYPE={DES|3DESOUTER|AES128|AES192|AES256|GENERAL|
RSA} [DESCRIPTION=string] [FILE=filename] [FORMAT={HEX|NIQ|SSH}]
[IPADDRESS=ipadd] [LENGTH=2..2048] [MODULE=module-id] [{RANDOM|
VALUE={enco-str|enco-5bit|enco-hex}}]
```

key-id: 鍵番号 (0~65535)

string: 文字列 (1~25 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

filename: ファイル名 (拡張子は.key)

ipadd: IP アドレス

module-id: モジュール名またはモジュール番号 (0~255)

enco-str: 文字列

enco-5bit: 5 ビット ASCII 文字列 (英小文字 a~z と数字 2~9 の組み合わせ)

enco-hex: バイト列 (16 進数。先頭に「0x」を付けること)

解説

暗号化や認証に用いる鍵を作成する。

RSA 公開鍵をファイルから取り込んだり、ファイルに書き出すときにも本コマンドを使用する。

作成した鍵の情報は、CREATE CONFIG コマンドで作成する設定ファイルとは別個に、フラッシュメモリー上に保存される。鍵の情報は、ノーマルモードではシステム再起動によって失われるため、通常運用時にはセキュリティーモードへの移行が必要。

パラメーター

KEY 鍵番号

TYPE 鍵の種類。DES (56 ビット DES 鍵)、3DESOUTER (168 ビット 3DES 鍵)、AES128 (128 ビット AES 鍵)、AES192 (192 ビット AES 鍵)、AES256 (256 ビット AES 鍵) を指定した場合は、RANDOM オプションか VALUE パラメーターが必須。RSA (RSA 公開鍵) を指定した場合は、LENGTH あるいは FILE パラメーターが必要。FILE を指定した場合は、KEY で指定した番号の鍵がすでに存在しているかどうかによって動作が異なる。鍵が存在していない場合は、指定ファイルから公開鍵を取り込む。KEY で指定した鍵がすでに存在するときは、指定ファイルに公開鍵を書き出す。FILE を指定せずに LENGTH だけを指定した場合は、指定した長さの RSA 公開鍵ペアがランダムに作成される。GENERAL (汎用パスフレーズ) を指定した場合は、LENGTH か VALUE の指定が必須。GENERAL 鍵は、認証用ハッシュ関数の鍵や ISAKMP の事前共有鍵 (pre-shared key) として使用する。

DESCRIPTION 鍵の説明文 (コメント)

FILE RSA 公開鍵ファイル名。拡張子は.key。鍵ファイルの形式は FORMAT パラメーターで指定する (必須)。KEY パラメーターで指定した RSA 公開鍵ペアが存在し、FILE で指定したファイルが存在していない場合は、指定ファイルに公開鍵が書き出される。KEY パラメーターで指定した鍵が存在せず、

FILE で指定したファイルが存在している場合は、指定ファイルから公開鍵がインポートされる。

FORMAT RSA 公開鍵ファイルのフォーマットを指定する。FILE パラメーター指定時は必須。SSH は Secure Shell 用（SSH サーバーのホスト鍵を登録するときなど）。NIQ は本ルーター独自形式でルーター間で RSA 鍵を交換するようなときに使う。HEX は他ベンダーの機器と鍵を交換するときなどに使う形式。デフォルトは HEX。

IPADDRESS 鍵に関連付ける IP アドレス。ISAKMP と SSH は、通信相手の RSA 鍵を探すときにこの値を用いる。

LENGTH 作成する鍵の長さ。RSA 公開鍵の場合はビットで指定する。RSA 公開鍵の長さは 32 の倍数でなくてはならず、有効な長さの範囲は 256～2048 ビット。一方、GENERAL 鍵の場合はバイト（文字数）で指定する。有効な長さの範囲は 2～64 バイト。

MODULE 鍵に関連付けるモジュール名

RANDOM 乱数で鍵を作成するときに指定する。GENERAL 鍵の場合、LENGTH の指定がないときは 20 バイト（160 ビット）の鍵が作成される。

VALUE 鍵の内容を指定する。DES、3DES 鍵の場合は、SHOW ENCO KEY コマンドで表示される 5 ビット ASCII か 16 進数フォーマットで指定する。また、AES 鍵の場合は、SHOW ENCO KEY コマンドで表示される 16 進フォーマットで指定する。16 進数の場合は先頭に「0x」を付けること。GENERAL 鍵の場合は文字列または 16 進数で指定する。”（ダブルクォテーション）は使用できない。大文字小文字を区別する。鍵の内容は、SHOW ENCO KEY コマンドで確認できる。

例

DES 暗号鍵をランダムに生成する。作成した鍵の値は SHOW ENCO KEY コマンドで確認できる。同じ鍵を他のルーターに入力するときは、表示された値（ASCII 文字列か 16 進数）を使う。

```
CREATE ENCO KEY=1 TYPE=DES RANDOM DESCRIPTION="My DES key"
```

他のルーターで作成した DES 鍵を 16 進フォーマットで入力する。鍵長は 64 ビット（8 バイト。DES 鍵 56 ビット + パリティ情報）

```
CREATE ENCO KEY=2 TYPE=DES DESCRIPTION="Imported DES key"
VALUE=0xBB09BAC150913E82
```

他のルーターで作成した DES 鍵を本製品独自の 5 ビット ASCII フォーマットで入力する。

```
CREATE ENCO KEY=2 TYPE=DES DESCRIPTION="Imported DES key"
VALUE=xme5vqkqse9iem
```

3DES 暗号鍵をランダムに生成する。

```
CREATE ENCO KEY=3 TYPE=3DESOUTER RANDOM DESCRIPTION="My 3DES key"
```

192 ビットの AES 暗号鍵をランダムに生成する。

CREATE ENCO KEY

```
CREATE ENCO KEY=4 TYPE=AES192 RANDOM DESCRIPTION="My 192-bit AES key"
```

SSH サーバーのホスト鍵を登録する。該当サーバーに初めて接続したときは、サーバーのホスト鍵が `ssh.key` という名前でファイルに保存される。その場合はこのコマンドを実行すること。このとき `FORMAT` に `SSH` を指定する。

```
CREATE ENCO KEY=100 TYPE=RSA FILE=ssh.key FORMAT=SSH
```

RSA 公開鍵ペアを作成する。鍵長の有効範囲は 256～2048 ビット。

```
CREATE ENCO KEY=3 TYPE=RSA LENGTH=1024 DESCRIPTION="my key pair"
```

作成した RSA 鍵ペアの公開鍵を SSH フォーマットでファイル `mypublic.key` に書き出す。

```
CREATE ENCO KEY=3 TYPE=RSA FILE=mypublic.key FORMAT=SSH
```

他者から入手した公開鍵ファイル `hispub.key` を鍵番号「4」としてインポートする。

```
CREATE ENCO KEY=4 TYPE=RSA FILE=hispub.key FORMAT=SSH DESCRIPTION="His  
public key"
```

16 バイトの MD5 認証鍵をランダムに作成する。

```
CREATE ENCO KEY=5 TYPE=GENERAL LENGTH=16 RANDOM DESCR="My MD5 Hash key"
```

16 バイトの MD5 認証鍵を文字列指定で作成する。

```
CREATE ENCO KEY=5 TYPE=GENERAL VALUE="jogefogejogefoge" DESCR="My MD5  
Hash key"
```

ISAKMP の事前共有鍵 (pre-shared key) を作成する。

```
CREATE ENCO KEY=6 TYPE=GENERAL VALUE="fugafugafuga" DESCR="ISAKMP  
pre-shared key"
```

備考・注意事項

- ・本コマンドはコンソールから入力したときだけ有効。設定ファイルにコマンドを記述しても無効なので注意。
- ・本コマンドで作成された鍵は、ノーマルモードでは、ルーターの再起動によって消去される。暗号鍵を使

用する場合は、必ずセキュリティモードに移行して鍵が保存されるようにする。

関連コマンド

DESTROY ENCO KEY (24 ページ)

SET ENCO KEY (36 ページ)

SHOW ENCO KEY (48 ページ)

CREATE STAR

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

CREATE STAR=*star-id* **MODE=**{MASTER|SLAVE|STANDBY} **ENCALGORITHM=**{DES}

star-id: STAR エンティティ番号 (0~255)

解説

リンク暗号化で使う鍵を管理する STAR エンティティを作成する。

STAR エンティティは、STAR モジュールの有効範囲を示すもので、鍵を作成し配布するマスタールーター 1 台と、鍵の配布を受けるスレーブルーター 1 台以上で構成される。また、オプションでスタンバイルーター (マスタールーターのバックアップ) を用意することもできる。

パラメーター

STAR STAR エンティティ番号

MODE STAR エンティティの動作モード。STAR 鍵交換における本ルーターの役割を指定する。

MASTER を指定した場合は、暗号鍵の生成と配布をつかさどるマスタールーターとして機能する。

SLAVE は、マスタールーターから鍵を受け取るスレーブルーターとして機能する。STANDBY は、マスタールーター障害時に代役を務めることのできるスタンバイルーターとして機能する。

ENCALGORITHM マスターキーテーブルとセッションキーを配布するときに使う暗号アルゴリズム。DES のみをサポートしている。

例

マスタールーター上で STAR エンティティ「0」を作成する。

```
CREATE STAR=0 MODE=MASTER ENCALGORITHM=DES
```

スレーブルーター上で STAR エンティティ「0」を作成する。

```
CREATE STAR=0 MODE=SLAVE ENCALGORITHM=DES
```

関連コマンド

DESTROY STAR (25 ページ)

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER (32 ページ)

SET STAR (38 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

SHOW STAR COUNTERS (52 ページ)

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG (54 ページ)

SHOW STAR NETKEY (56 ページ)

DESTROY ENCO KEY

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

DESTROY ENCO KEY=*key-id*

key-id: 鍵番号 (0～65535)

解説

指定した鍵を削除する。

フラッシュメモリー上の鍵が格納されていた領域は上書きされ、鍵情報が取得できないように処置される。

パラメーター

KEY 鍵番号

関連コマンド

CREATE ENCO KEY (18 ページ)

SET ENCO KEY (36 ページ)

SHOW ENCO KEY (48 ページ)

DESTROY STAR

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

DESTROY STAR=star-id [NETKEY|MKT]

star-id: STAR エンティティ番号 (0~255)

解説

STAR エンティティを削除する。あるいは、STAR エンティティのネットワークキーまたはマスターキーテーブルを削除する。

パラメーター

STAR STAR エンティティ番号

NETKEY ネットワークキーを削除するときに指定する。ネットワークキーは、マスターキーテーブルを転送するときに使用する共通秘密鍵

MKT マスターキーテーブルを削除するときに指定する。マスターキーテーブルは、実際の通信を暗号化するセッションキーの転送に使われる鍵を複数まとめたもの

関連コマンド

CREATE STAR (22 ページ)

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER (32 ページ)

SET STAR (38 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG (54 ページ)

SHOW STAR NETKEY (56 ページ)

DISABLE ENCO COMPSTATISTICS

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

DISABLE ENCO COMPSTATISTICS

解説

圧縮チャンネルの圧縮率統計・保存機能を無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ENABLE ENCO COMPSTATISTICS (29 ページ)

SHOW ENCO (40 ページ)

SHOW ENCO CHANNEL (42 ページ)

DISABLE ENCO DEBUGGING

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

DISABLE ENCO DEBUGGING={PACKET}

解説

暗号（ENCO）モジュールのデバッグオプションを無効にする。

パラメーター

DEBUGGING デバッグオプションを指定する。現在唯一サポートされているオプションは PACKET（ENCO モジュールが生成したパケットの内容表示）

関連コマンド

ENABLE ENCO DEBUGGING（30 ページ）

DISABLE STAR DEBUGGING

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

DISABLE STAR DEBUGGING

解説

STAR モジュールのデバッグ機能を無効にする。デフォルトは無効。

関連コマンド

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

ENABLE ENCO COMPSTATISTICS

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

ENABLE ENCO COMPSTATISTICS

解説

圧縮チャンネルの圧縮率統計・保存機能を有効にする。デフォルトは無効。
圧縮率統計は SHOW ENCO CHANNEL コマンドで見ることができる。

関連コマンド

DISABLE ENCO COMPSTATISTICS (26 ページ)

SHOW ENCO (40 ページ)

SHOW ENCO CHANNEL (42 ページ)

ENABLE ENCO DEBUGGING

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

ENABLE ENCO DEBUGGING={PACKET}

解説

暗号（ENCO）モジュールのデバッグオプションを有効にする。
デバッグ情報は、コマンドを入力した端末画面に出力される。

パラメーター

DEBUGGING デバッグオプション。現在唯一サポートされている **PACKET** オプションは、ENCO モジュールが生成したパケットの内容を端末画面に表示するもの。

備考・注意事項

本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものですので、ご使用に際しては弊社技術担当にご相談ください。

関連コマンド

DISABLE ENCO DEBUGGING (27 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

ENABLE STAR DEBUGGING

解説

STAR モジュールのデバッグ機能を有効にする。デフォルトは無効。

デバッグ機能を有効にすると、パケットをエンコード/デコードするたびにコンソールにメッセージが表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > enable star debugging

Manager > DEBUG - starEncode

Manager > DEBUG - starDecode

Manager > DEBUG - starEncode

Manager > DEBUG - starDecode

Manager > DEBUG - starEncode
```

備考・注意事項

本コマンドは、トラブルシューティング時など、内部情報の確認が必要な場合を想定したものですので、ご使用に際しては弊社技術担当にご相談ください。

関連コマンド

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

ENABLE STAR MKTTRANSFER=*sernum*

sernum: シリアル番号 (1~15 文字の数字)

解説

マスタールーター上で作成したマスターキーテーブルを、指定したシリアル番号を持つスレーブルーターに転送する。本コマンドはマスタールーター上で実行する。

転送状況は SHOW STAR MKTTRANSFER LOG コマンドで確認できる (State 欄)。

パラメーター

MKTTRANSFER 転送先ルーターのシリアル番号を指定する。SHOW STAR MKTTRANSFER LOG コマンドで表示された番号を指定する。また、自機のシリアル番号は SHOW SYSTEM コマンドで確認できる。

例

マスターキーテーブルをスレーブルーター (シリアル番号 12345678) に転送する。

```
ENABLE STAR MKTTRANSFER=12345678
```

関連コマンド

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG (54 ページ)

RESET ENCO COUNTERS

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

RESET ENCO COUNTERS=**{DES|DH|HMAC|JOBPROCESSING|RSA|USER|UTIL}**

解説

暗号（ENCO）モジュールの各種統計カウンターをリセットする。

パラメーター

COUNTERS 統計カウンター。USER、UTIL、JOBPROCESSING の各カウンターは、ENCO モジュールの全般的情報を示すもの。DES、DH、HMAC、RSA は特定のプロセスを対象としたもの。

関連コマンド

SHOW ENCO COUNTERS (45 ページ)

SET ENCO DHPADDING

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

SET ENCO DHPADDING={ON|OFF}

解説

Diffie Hellman 鍵交換アルゴリズムにおける鍵の計算方式を変更する。

パラメーター

DHPADDING 鍵の計算方式。ON を指定した場合は、計算方式を他社製 IPsec 機器とあわせる。OFF を指定した場合は、計算方式を従来の AR ルーターとあわせる。他社製 IPsec 機器との接続で PFS を使用する場合は ON のまま使用するのがよい。AR ルーター同士を接続するときは両者の設定を同じにすること。特に、本コマンド未実装の AR ルーターとの接続においては、本機の設定を OFF にすること。デフォルトは ON。

関連コマンド

CREATE IPSEC POLICY (「IPsec」の 41 ページ)

SET IPSEC POLICY (「IPsec」の 82 ページ)

SHOW ENCO (40 ページ)

SET ENCO DHPRIORITY

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

SET ENCO DHPRIORITY={HIGH|MEDIUM|LOW}

解説

Diffie Hellman 鍵交換アルゴリズムの処理にどの程度の優先度を与えるかを指定する。

鍵の計算は CPU 負荷のかかる処理なので、IPsec による接続先が多いような場合に必要であれば本コマンドで鍵交換処理の優先度を下げることができる。

パラメーター

DHPRIORITY 鍵交換処理の優先度。HIGH (高)、MEDIUM (中)、LOW (低) から選択する。デフォルトは HIGH。

関連コマンド

SHOW ENCO (40 ページ)

SET ENCO KEY

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

```
SET ENCO KEY=key-id [DESCRIPTION=string] [IPADDRESS=ipadd]
[MODULE=module-id]
```

key-id: 鍵番号 (0～65535)

string: 文字列 (1～25 文字。空白を含む場合はダブルクォートで囲む)

ipadd: IP アドレス

module-id: モジュール名またはモジュール番号 (0～255)

解説

既存鍵の説明、IP アドレス、関連モジュールを変更する。

パラメーター

KEY 鍵番号

DESCRIPTION 鍵の説明

IPADDRESS 鍵に関連付ける IP アドレス。ISAKMP と SSH は、通信相手の RSA 鍵を探すときにこの値を用いる。

MODULE 鍵に関連付けるモジュール。

関連コマンド

CREATE ENCO KEY (18 ページ)

DESTROY ENCO KEY (24 ページ)

SHOW ENCO KEY (48 ページ)

SET ENCO SW

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

SET ENCO SW [PREDCHANNELS=0..4] [STACCHANNELS=0..4]

解説

ソフトウェア圧縮機能の設定パラメーターを変更する。

パラメーター

PREDCHANNELS Predictor 用圧縮チャンネルの数。1 チャンネル当たり 128KB の連続したメモリ空間を必要とする。メモリ容量 4MB の機種では最大チャンネル数は 2 に制限される。

STACCHANNELS STAC LZS 用圧縮チャンネルの数。1 チャンネル当たり 13KB の連続したメモリ空間を必要とする。

例

STAC LZS 用のソフトウェア圧縮チャンネルを 2 チャンネル確保する。

SET ENCO SW STACCHANNELS=2

備考・注意事項

圧縮チャンネルを確保したときは、設定をファイルに保存し、ルーターを再起動する必要がある。

関連コマンド

SHOW ENCO (40 ページ)

SET STAR

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

```
SET STAR=star-id {MODE={MASTER|SLAVE|STANDBY}|NETKEY {RANDOM|  
VALUE=string}|MKT RANDOM}
```

star-id: STAR エンティティ番号 (0~255)

string: 文字列 (1~14 文字。英小文字 a~z と数字 2~9 の組み合わせ。0 と 1 は使えない)

解説

STAR エンティティのモード変更、ネットワークキーの作成、入力、マスターキーテーブルの作成を行う。

パラメーター

STAR STAR エンティティ番号

MODE STAR エンティティの動作モード。STAR 鍵交換における本ルーターの役割を指定する。

MASTER を指定した場合は、暗号鍵の生成と配布をつかさどるマスタールーターとして機能する。

SLAVE は、マスタールーターから鍵を受け取るスレーブルーターとして機能する。STANDBY は、マスタールーター障害時に代役を務めることのできるスタンバイルーターとして機能する。

NETKEY ネットワークキーを作成あるいは入力するときに指定する。

RANDOM ランダムなネットワークキーを生成する。

VALUE 指定した値のキーを作成する。

MKT マスタールーター上で 160 個の DES 鍵からなるテーブルを作成し、それを STAR エンティティのマスターキーテーブルとする。鍵はランダムに作成される。

例

マスタールーター上で STAR エンティティ「0」のネットワークキーを生成する。

```
SET STAR=0 NETKEY RANDOM
```

マスタールーター上で作成したネットワークキーをスレーブルーターに入力する。マスタールーター上で「SHOW STAR=0 NETKEY」を実行して表示された文字列を指定する。

```
SET STAR=0 NETKEY VALUE=fbj5m5ap7wasgd
```

マスタールーター上でマスターキーテーブルを生成する。

```
SET STAR=0 MKT RANDOM
```

関連コマンド

CREATE STAR (22 ページ)

DESTROY STAR (25 ページ)

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER (32 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

SHOW STAR COUNTERS (52 ページ)

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG (54 ページ)

SHOW STAR NETKEY (56 ページ)

SHOW ENCO

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

SHOW ENCO

解説

暗号（ENCO）モジュールの全般的な情報を表示する。

入力・出力・画面例

```
Manager > show enco

ENCO Module Configuration:
  Hardware ..... PRESENT
  Lowest valid channel ..... 1
  Highest valid channel ..... 2047
  Compression Statistics ..... DISABLED
  Diffie Hellman Priority ..... HIGH
  Diffie Hellman Padding ..... ON

SW Processes available
  SSL - Secure Socket Layer

HW Processes available
  DES - DES Encryption
  3DES - Triple DES Encryption
  AES - AES Encryption
  RSA - RSA Encryption
  DH - Diffie Hellman
  HMAC - Message Digest
  IPSEC - IP Security
```

| | |
|-------------------------|---|
| Hardware | 暗号ハードウェアの有無 |
| Lowest valid channel | 上位モジュールが使用可能なチャンネルのうちでもっとも若い番号 |
| Highest valid channel | 上位モジュールが使用可能なチャンネルのうちでもっとも大きい番号 |
| Compression Statistics | 圧縮チャンネルの統計保存機能の有効・無効 |
| Diffie Hellman Priority | Diffie Hellman 鍵交換アルゴリズムの処理の優先度。HIGH、MEDIUM、LOW のいずれか |
| Diffie Hellman Padding | Diffie Hellman の鍵計算方式を他ベンダーの機器にあわせるかどうか。 |
| SW Processes available | ソフトウェアで実現できる機能の一覧 |
| HW Processes available | ハードウェアで実現できる機能の一覧 |

表 1:

関連コマンド

SET ENCO DHPADDING (34 ページ)

SET ENCO DHPRIORITY (35 ページ)

SHOW ENCO CHANNEL (42 ページ)

SHOW ENCO COUNTERS (45 ページ)

SHOW ENCO CHANNEL

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

SHOW ENCO CHANNEL [=channel] [COUNTERS]

channel: チャンネル番号 (0~127)

解説

暗号 (ENCO) モジュール用チャンネルの情報を表示する。

パラメーター

CHANNEL ENCO チャンネル番号。省略時はすべてのアクティブなチャンネルの情報が簡潔に表示される。指定時は該当チャンネルの詳細情報が表示される。

COUNTERS 指定したチャンネルの統計情報を表示するときに指定する。チャンネルを指定しない場合は無効。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show enco channel
```

| Channel | State | User | UserID | MDL | pktOverhead | Process |
|---------|-------|-------|----------|------|-------------|---------|
| 1 | UP | IPSEC | 00010000 | 1800 | 100 | DES |
| 2 | UP | IPSEC | 00020000 | 1800 | 100 | HMAC |
| 3 | UP | IPSEC | 00000001 | 1800 | 100 | HMAC |

```
SecOff > show enco channel=1
```

```
Channel ..... 1

Type ..... ENCODE/DECODE
State ..... UP
User ..... IPSEC
User ID ..... 00010000
Maximum Data Length ..... 1800
Packet Overhead ..... 100
Process ..... DES
Process Configuration:
  Des Type.....DES - 56 bit
  Channel Type.....ENCODE/DECODE
  History Mode.....Off
```

```

IV Type.....Specified
Hardware.....N/A

```

```
SecOff > show enco channel=1 counters
```

```
Channel Counters:
```

```

UP events ..... 1          DOWN events ..... 0
start config ..... 1       attach good ..... 1
encode NULL packets ..... 0 decode NULL packets ..... 0
enc bad priorities ..... 0  dec bad priorities ..... 0
encode bad length ..... 0  decode bad length ..... 0
encode actions sent ..... 1258 decode actions sent ..... 1283
good encodes ..... 1258    good decodes ..... 1283
bad encodes ..... 0        bad decodes ..... 0
reset E actions sent ..... 0 reset D actions sent ..... 0
good encode resets ..... 0  good decode resets ..... 0
bad encode codes ..... 0    bad decode resets ..... 0
discarded enc jobs ..... 0  discarded dec jobs ..... 0

```

| Channel | チャンネル番号 |
|-------------|--|
| State | チャンネルの状態 (UP か DOWN) |
| User | チャンネルを使用している上位モジュール (SSH、ISAKMP、IPSEC) |
| UserID | 上位モジュールがこのチャンネルを識別するために使っている識別子 |
| MDL | このチャンネル上で受け入れ可能なパケットの最大データサイズ (Maximum Data Length) |
| pktOverhead | パケットのオーバーヘッドバイト数。上位モジュールが、エンコードされたデータの前に pktOverhead バイトの空きを求めていることを示す |
| Process | このチャンネルを使用する暗号プロセスの種類 (RSA、DH、DES、HMAC) |

表 2: チャンネル番号無指定時

| Channel | チャンネル番号 |
|---------------------|--|
| Type | チャンネルモード (ENCODE/DECODE、ENCODE ONLY、DECODE ONLY) |
| State | チャンネルの状態 (UP か DOWN) |
| User | チャンネルを使用している上位モジュール (SSH、ISAKMP、IPSEC) |
| UserID | 上位モジュールがこのチャンネルを識別するために使っている識別子 |
| Maximum Data Length | このチャンネル上で受け入れ可能なパケットの最大データサイズ |
| Packet Overhead | パケットのオーバーヘッドバイト数。上位モジュールが、エンコードされたデータの前に Packet Overhead バイトの空きを求めていることを示す |

| | |
|-----------------------|--|
| Process | このチャンネルを使用する暗号プロセスの種類 (RSA、DH、DES、HMAC) |
| Process Configuration | 暗号プロセスの詳細。表示内容はプロセスの種類によって異なる |
| Check Type | 使用するチェックサムの種類 |
| Des Type | (DES のみ) DES アルゴリズム。「DES - 56 bit」, 「3DES - 168 bit - outer CBC」などがある |
| Channel Type | (DES のみ) チャンネルモード。ENCODE/DECODE、ENCODE ONLY、DECODE ONLY のいずれか |
| History Mode | (DES のみ) DES ヒストリーモードの有効・無効 |
| IV Type | (DES のみ) IV (Initialisation Vector) の種類。Zero、Random、Specified のいずれか |
| RSA mode | (RSA のみ) RSA 暗号化モード。PUBLIC か PRIVATE |
| Mode | (DH のみ) Diffie Hellman のモード。Phase 1 か Phase 2 |
| Group Type | (DH のみ) Oakley グループの種類。現時点では MODP のみサポート |
| Group | Oakley グループ。512-bit MODP (グループ 0)、768-bit MODP (グループ 1)、1024-bit MODP (グループ 2) のいずれか |
| Algorithm | (HMAC のみ) HMAC アルゴリズム。MD5 か SHA |
| Key Length | (HMAC のみ) HMAC 鍵長 |

表 3: チャンネル番号指定時

関連コマンド

SHOW ENCO (40 ページ)

SHOW ENCO COUNTERS (45 ページ)

SHOW ENCO COUNTERS

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

SHOW ENCO COUNTERS=**{AES|DES|DH|HARDWARE|HMAC|JOBPROCESSING|RSA|USER|UTIL}**

解説

暗号 (ENCO) モジュールの各種統計カウンターを表示する。

パラメーター

COUNTERS 表示する統計カウンターを指定する。USER (ENCO モジュールを利用する上位モジュール)、UTIL (ユーティリティジョブ)、HARDWARE (暗号処理ハードウェア)、JOBPROCESSING は、ENCO モジュールの全般的情報を示すもの。AES、DES、DH (Diffie Hellman)、HMAC、RSA は個々の暗号プロセスを対象としたもの。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show enco counters=des

ENCO Process DES/3DES Counters:
  configGood ..... 6          configBad ..... 0
  configNoResource ..... 0      configNotSSH ..... 0
  badBuffer ..... 0            badAlign ..... 0
  badLength ..... 0            nohistory ..... 0
  desJobs ..... 2710           3Des2KeyJobs ..... 0
  3DesInnerJobs ..... 0        d3DesOuterJobs ..... 0
  noHistJobs ..... 2710        desMacJobs ..... 0
  badDesType ..... 0           badJobType ..... 0

  unknownJob ..... 0           error ..... 0
  reset ..... 0                confNotDes ..... 0
  commWaitTimeOut ..... 0      dataInnWaitTimeOut ..... 0
  dataOutWaitTimeOut ..... 0

  goodDecrypt ..... 1368        goodEncrypt ..... 1342
  badDecrypt ..... 0            badEncrypt ..... 0

SecOff > show enco counters=dh

ENCO Process Diffie Hellman Counters:
  goodPhase1 ..... 1           badPhase1 ..... 0
  goodPhase2 ..... 1           badPhase2 ..... 0
  badGroupType ..... 0         badGroup ..... 0
```

SHOW ENCO COUNTERS

```

badGroupParameters ..... 0          badDataLength ..... 0
noResources ..... 0

SecOff > show enco counters=hmac

ENCO Process HMAC Counters:
goodHashMD5 ..... 2877          badHashMD5 ..... 0
goodHashSHA ..... 2877          badHashSHA ..... 0
goodConfigure ..... 0           badConfigure ..... 0
badAlgorithm ..... 0            noResources ..... 0
badKeyLength ..... 0            unknownJob ..... 0
badDataLength ..... 0

SecOff > show enco counters=jobprocessing

ENCO Queues                      Queued  Discarded  Processed
-----
Immediate Input queue            0         0         0
Priority 0 Input queue (high)    0         0         0
Priority 1 Input queue           0         0         0
Priority 2 Input queue           0         0         0
Priority 3 Input queue           0         0         0
Priority 4 Input queue           0         0         9
Priority 5 Input queue           0         0       8715
Priority 6 Input queue           0         0         0
Priority 7 Input queue           0         0         0
Priority 8 Input queue (low)     0         0         0
Output queue                     0         0       8724
-----

Input queue length limit ..... 250
Lowest input priority queue ..... 5
Highest input priority queue ..... 0

SecOff > show enco counters=rsa

ENCO Process RSA Counters:
goodPublicEncrypt ..... 0          badPublicEncrypt ..... 0
goodPrivateDecrypt ..... 0          badPrivateDecrypt ..... 0
goodPrivateEncrypt ..... 0          badPrivateEncrypt ..... 0
goodPublicDecrypt ..... 0          badPublicDecrypt ..... 0
goodGenerateKey ..... 2            badGenerateKey ..... 0
badDataLength ..... 0            badKey ..... 0

SecOff > show enco counters=user

ENCO User Interface Counters:
startConfig ..... 3              startReconfig ..... 0
attachGood ..... 3               attachFail ..... 0
attachNoConfig ..... 0           attachBadUserType ..... 0

```

| | |
|------------------------------|------------------------------|
| attachedInvalidChan 0 | attachedUnusedChan 0 |
| attachProcNotAvail 0 | |
| reconfigInvalidChan 0 | reconfigUnusedChan 0 |
| reconfigNoConfig 0 | |
| detachInvalidChannel 0 | detachUnusedChannel 0 |
| detachedInvalidChan 0 | detachedUnusedChan 0 |
| detachGood 0 | |
| decodeInvalidChannel 0 | decodeUnusedChannel 0 |
| encodeInvalidChannel 0 | encodeUnusedChannel 0 |
| codedInvalidChannel 0 | codedUnusedChannel 0 |
| resetInvalidChannel 0 | resetUnusedChannel 0 |
| resetDoneInvalidChan 0 | resetDoneUnusedChan 0 |
| configBadMode 0 | configBadUserType 0 |
| configBadPktLength 0 | configBadEncrType 0 |
| configBadCompType 0 | configBadHistoryMode 0 |
| configBadCheckType 0 | |
| discardInvalidChan 0 | discardUnusedChannel 0 |

SecOff > show enco counters=util

ENCO Utility Counters:

| | |
|-----------------------------|------------------------------|
| codeNullPacket 0 | codeBadPacketPriorit 0 |
| codeBadPacketLength 0 | codeBadConfig 0 |
| actionSentEncode 0 | actionSentDecode 0 |
| configureGood 9 | configureFail 0 |
| encodeGood 6 | decodeGood 3 |
| encodeBad 0 | decodeBad 0 |

SHOW ENCO KEY

カテゴリー：暗号・圧縮 / 一般コマンド

SHOW ENCO KEY [=key-id]

key-id: 鍵番号 (0~65535)

解説

鍵の情報を表示する。

パラメーター

KEY 鍵番号。本パラメーターを指定した場合は、該当する鍵の内容が表示される。表示形式は鍵の種類によって異なる。本パラメーターを省略した場合は、ENCO モジュールが保持している鍵の一覧が表示される。

入力・出力・画面例

```
SecOff > show enco key
```

| ID | Type | Length | Digest | Description | Mod | IP |
|----|-------------|--------|----------|---------------|-----|----|
| 1 | GENERAL | 8 | 2DEB32E2 | - | - | - |
| 2 | RSA-PRIVATE | 1024 | B18DFD5D | My host_key | - | - |
| 3 | RSA-PRIVATE | 768 | E61E0F25 | My server_key | - | - |

```
SecOff > show enco key=2
```

```
1024
0x010001
0x961c0dc80c8728b6e48fa2362b6ac0b59ba569e28112be4c3e260bb359e0b651
2bdd539a5572529f6aa190984fabcd3f19d6b9068e88f86a41ee810ed499555
223025288091ebbe959596542235a5446a99600d969d9a3e9ec777f726a0d4ae
8bf542d7f38ae249c898c5471cb59addc66f79294494d39821828d9e2d647fd9
```

```
IP Address:
```

```
-
```

| ID | 鍵番号 |
|------|--|
| Type | 鍵の種類。DES、3DESOUTER、AES128、AES192、AES256、RSA-PRIVATE、RSA-PUBLIC、GENERAL がある |

| | |
|-------------|--|
| Length | 鍵の長さ。RSA 鍵のみビット表示。その他はバイト |
| Digest | 鍵データのメッセージダイジェスト |
| Description | 鍵の説明（CREATE ENCO KEY コマンドの DESCRIPTION パラメーター） |
| Mod | 鍵を使用するユーザーモジュール |
| IP | 鍵に関連付けられた IP アドレス |

表 4:

関連コマンド

- CREATE ENCO KEY (18 ページ)
- DESTROY ENCO KEY (24 ページ)
- SET ENCO KEY (36 ページ)

SHOW STAR

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

SHOW STAR [=star-id]

star-id: STAR エンティティ番号 (0~255)

解説

STAR エンティティに関する情報を表示する。

パラメーター

STAR STAR エンティティ番号。省略時はすべてのエンティティについて、簡潔な情報が表示される。
指定時は指定したエンティティの詳細情報が表示される。

入力・出力・画面例

```
Manager > show star

Star Entities

      0

Manager > show star=0
Star ID ..... 0
Star Mode ..... MASTER
Key Transfer Encryption Algorithm. DES - 56 bit
Netkey Valid ..... TRUE
Master Key Table Valid ..... TRUE
Netkey Digest ..... 071e435b
Master Key Table Digest ..... 5214c3e0
Transfer State ..... INITIAL
```

| | |
|-----------------------------------|--|
| Star ID | STAR エンティティ番号 |
| Star Mode | STAR エンティティの動作モード。SLAVE、STANDBY、MASTER のいずれか |
| Key Transfer Encryption Algorithm | 暗号鍵の転送時に用いる暗号アルゴリズム。DES - 56 bit、3DES - 112 bit - outer CBC、3DES - 168 bit - inner CBC のいずれか |

| | |
|-------------------------|--|
| Netkey Valid | ネットワークキーが有効かどうか |
| Master Key Table Valid | マスターキーテーブルが有効かどうか |
| Netkey Digest | ネットワークキーの MD5 ダイジェスト |
| Master Key Table Digest | マスターキーテーブルの MD5 ダイジェスト |
| Transfer State | マスターキーテーブル配布処理の状態。INITIAL、ENABLED、DISABLED、UNKNOWN のいずれか |

表 5:

関連コマンド

CREATE STAR (22 ページ)

DESTROY STAR (25 ページ)

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER (32 ページ)

SET STAR (38 ページ)

SHOW STAR COUNTERS (52 ページ)

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG (54 ページ)

SHOW STAR NETKEY (56 ページ)

SHOW STAR COUNTERS

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

SHOW STAR [=star-id] **COUNTERS**

star-id: STAR エンティティ番号 (0~255)

解説

STAR モジュールに関するカウンター情報を表示する。

パラメーター

STAR STAR エンティティ番号

入力・出力・画面例

```
Manager > show star counters
```

General Star Counters

| | | | |
|---------------------------|---|-------------------------|---|
| attachNoConfig | 0 | attachBadId | 0 |
| detachInvalidChannel | 0 | detachUnusedChannel | 0 |
| setCompInvalidChannel | 0 | setCompUnusedChannel | 0 |
| resetInvalidChannel | 0 | resetUnusedChannel | 0 |
| resetENoStar | 0 | resetDNoStar | 0 |
| encodeInvalidChannel | 0 | decodeInvalidChannel | 0 |
| encodeUnusedChannel | 0 | decodeUnusedChannel | 0 |
| encoEventUnusedChannel | 0 | encoEventStarUnused | 0 |
| getMKTUnusedChannel | 0 | getMKTInvalidChannel | 0 |
| getMKTGood | 0 | getMKTNoStar | 0 |
| setMKTUnusedChannel | 0 | setMKTInvalidChannel | 0 |
| setMKTGood | 0 | setMKTNoStar | 0 |
| getSKUnusedChannel | 0 | getSKNoStar | 0 |
| setSKUnusedChannel | 0 | setSKNoStar | 0 |
| getInfoUnusedChannel | 8 | getInfoNoStar | 0 |
| transferTimeoutChanUnused | 0 | transferTimeoutNoStar | 0 |
| transferRequestChanUnused | 0 | transferRequestNoStar | 0 |
| transferEnableChanUnused | 0 | transferEnableNoStar | 1 |
| transEndNotifyChanUnused | 0 | transferEndNotifyNoStar | 0 |
| sessTimeoutUnusedChannel | 0 | sessTimeoutNoStar | 0 |
| createStar | 1 | destroyStar | 0 |
| destroyNetKey | 0 | destroyMKT | 0 |

| | | | |
|--------------------------------|-----|-----------------------|---|
| setStarMode | 0 | setStarEncAlgorithm | 0 |
| setStarNetKey | 1 | setStarMKTRandom | 1 |
| Manager > show star=0 counters | | | |
| encrConfGood | 3 | compConfGood | 0 |
| confGood | 3 | compConfGoodDetachE | 0 |
| encrConfFail | 0 | compConfFail | 0 |
| confFail | 0 | compConfFailDetachE | 0 |
| encrDetached | 2 | compDetached | 0 |
| detached | 2 | detachedConfFail | 0 |
| encodeGood | 210 | encodeFailed | 0 |
| decodeGood | 210 | decodeFailed | 0 |
| encodeDiscarded | 0 | decodeDiscarded | 0 |
| resetGetSKAlreadyCurr | 0 | resetSetSKAlreadyCurr | 0 |
| resetDNoSessionKey | 0 | resetDBadMKTIndex | 0 |
| resetCompHist | 0 | | |
| getMKTAlreadyCurrent | 0 | getMKTStarInvalid | 0 |
| getMKTEncodeFailed | 0 | getMKTGood | 4 |
| setMKTNULLBuffer | 0 | setMKTAlreadyCurrent | 0 |
| setMKTNoStar | 0 | setMKTDecodeFailed | 0 |
| setMKTGood | 0 | | |
| getSKAlreadyCurrent | 0 | getSKMKTInvalid | 0 |
| getSKEncodeFailed | 0 | getSKResetFailed | 0 |
| getSKGood | 66 | | |
| setSKNULLBuffer | 0 | setSKAlreadyCurrent | 0 |
| setSKDecodeFailed | 0 | setSKMKTInvalid | 0 |
| setSKResetFailed | 0 | setSKGood | 4 |

関連コマンド

CREATE STAR (22 ページ)

DESTROY STAR (25 ページ)

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER (32 ページ)

SET STAR (38 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG (54 ページ)

SHOW STAR NETKEY (56 ページ)

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG

解説

スレーブルーターからのマスターキーテーブル転送要求を表示する。

入力・出力・画面例

| Manager > show star mkttransfer log | | | | | | | |
|---|--------|------|--------|-----------|----------|-------------|----------|
| Star Master Key Table transfer request log: | | | | | | | |
| Serial Number | StarID | User | UserID | State | Time | Date | Requests |
| 41849368 | 0 | PPP | 0 | RECEIVED | 16:22:27 | 08-Nov-2001 | 8 |
| Manager > show star mkttransfer log | | | | | | | |
| Star Master Key Table transfer request log: | | | | | | | |
| Serial Number | StarID | User | UserID | State | Time | Date | Requests |
| 41849368 | 0 | PPP | 0 | SENDING | 16:22:27 | 08-Nov-2001 | 48 |
| Manager > show star mkttransfer log | | | | | | | |
| Star Master Key Table transfer request log: | | | | | | | |
| Serial Number | StarID | User | UserID | State | Time | Date | Requests |
| 41849368 | 0 | PPP | 0 | COMPLETED | 16:22:27 | 08-Nov-2001 | 48 |

| | |
|---------------|--|
| Serial Number | マスターキーテーブルを要求しているルーターのシリアル番号 |
| StarID | STAR エンティティ番号 |
| User | 要求を受信したチャンネルのユーザーモジュール |
| UserID | 要求を受信したチャンネルのユーザーモジュール ID |
| State | マスターキーテーブル転送要求の状態。RECEIVED(転送要求を受信)、BADKEY、SENDING (転送中)、FAILED、COMPLETED (転送完了) のいずれか |
| Time | 最初の転送要求を受信した時刻 |
| Date | 最初の転送要求を受信した日付 |

| Requests | 同一の転送要求を受信した回数 |
|----------|----------------|
|----------|----------------|

表 6:

関連コマンド

CREATE STAR (22 ページ)

DESTROY STAR (25 ページ)

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER (32 ページ)

SET STAR (38 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

SHOW STAR COUNTERS (52 ページ)

SHOW STAR NETKEY (56 ページ)

SHOW STAR NETKEY

カテゴリー：暗号・圧縮 / STAR 鍵交換

SHOW STAR=*star-id* NETKEY

star-id: STAR エンティティ番号 (0 ~ 255)

解説

指定した STAR エンティティのネットワークキーを ASCII 形式で表示する。マスタールーター上でのみ実行可能。

パラメーター

STAR STAR エンティティ番号

入力・出力・画面例

```
Manager > show star=0 netkey

fbj5m5ap7wasgd
```

関連コマンド

CREATE STAR (22 ページ)

DESTROY STAR (25 ページ)

DISABLE STAR DEBUGGING (28 ページ)

ENABLE STAR DEBUGGING (31 ページ)

ENABLE STAR MKTTRANSFER (32 ページ)

SET STAR (38 ページ)

SHOW STAR (50 ページ)

SHOW STAR COUNTERS (52 ページ)

SHOW STAR MKTTRANSFER LOG (54 ページ)